

# 心の力

心の力は、成蹊学園創立者中村春二先生が一九一三（大正二）年、当時成蹊実務学校の教師であった小林一郎氏に依頼してつくられたものである。

成蹊学園の各校の学生、生徒および教職員は凝念の際、これを唱和し心の糧とした。また、卒業生は多かれ少なかれその影響をうけ、人生の指針とした。校歌にある「心力歌」はこれである。

※文字は成蹊実務学校発行（一九一五（大正四）年）の『心の力』を原典とし、読みは中村春二先生内声録音のものに拠った。

## 第六章

心の靈一たび耀けば、向ふ物皆照さる。宇宙の廣きも廣しとせず、毛髮の微なるも微といはず。我を繞れる萬象は、色相もとより無限なり。形も無限、聲もまた無限、香も無限、味もまた無限、斯く限り無き性をそなへ、斯く限りなき時の中に、限り無き變化を示せる、萬象の中に我立てり。されど我が心の靈なる、之を照して敢て漏さず。或は分ち或は比べ、或は外より或は内より、同じき中に異を求め、異なる間に同を捉へ、有るによりて無きを推し、來るによりて去るを察し、果てなき微妙の作用に、この萬象を照し盡して、我三寸の胸臆に、斯る無限の相を藏む。六尺の身に宿れ

ども、此の心の翔る所は、海を超え陸を超え、天地の外に出んとす。五十年の生を享くれど、此の心の通ふ所は、幾萬年の往古より、百千劫の後に及ぶ。我は古人の面を見されど、古人の心に觸れつべし。心と心と相觸るれば、相見て相語るに異らず。我が友は海の外に在れど、友の心はよく我に感ず。心と心と相感すれば、相共に住むと同じからずや。時は古今によりて隔たり、所は東西によりて分たる、斯くして此の身は制せらる、ただ此の心は制せられず。心と心と相あふ時、古今もなく東西もなく、無限の境をここに開く。妙なるかな我が心の靈。